

(提言)

「持続可能な最善の医療を実現する次世代型ヘルスケアプラットフォームの構築」

1 現状及び問題点

日本の医療制度及び医療技術は世界的に高い水準を保持しているが、従来行われてきた大規模な臨床試験による医療の質の向上は困難となりつつある。また、実際の医療行為の質やパフォーマンスに地域や施設によるばらつきがあることは残念ながら否定できない。さらに、少子高齢化に代表される人口動態の変化と医療需要の増加、高額医薬品や医療機器などの問題は、医療財源の確保や、公的医療保険制度の持続可能性等の課題を社会に突き付けている。

これらの原因は、医療データが「見える化」した形で蓄積されていないこと、医療データを評価し改善につなげるシステムがないことに起因する。

2 提言の内容

以下の 3 点を満たす次世代型ヘルスケアプラットフォームは、「内科」、「外科」、「感染症」、「がん」など学会や医療の領域にとらわれることなく患者視点から構築され、登録データ集計・分析・活用により医療の質向上、地域医療への貢献につながるフィードバック、臨床研究に欠かせない基盤となるものである。

(1) 患者さんのためのデータベース (For the patient)

患者さんのためのデータベースの要件は、① 医療現場の質向上のための継続的なフィードバックを行う PDCA (Plan-Do-Check/Study-Action) サイクルが確立していること、② 国際的な基準に合致した医療の質の測定方法が確立されていること、③ 高い悉皆性を確保していること、である。

(2) 地域医療の在り方の決定に貢献する (For the people)

医療ニーズ、医療資源、医療の質等は地域によって大きく異なる。ヘルスケアプラットフォームとそれを構成する全てのデータベースは、地域の実態を把握し、地域医療の在り方の決定に貢献し、ひいては医療の質の向上や均てん化に寄与するものであるべきである。

(3) 医療システムの持続可能性に貢献する (For the better future)

イノベーションと持続可能性の両立が大きな課題となっているなか、ヘルスケアプラットフォームとそれを構成する全てのデータベースは、医療の質向上の持続可能性に貢

献するものであるべきである。例えば、高額薬剤や高額医療機器の適正使用、治療関連合併症の低減、入院期間の短縮等により、医療の質を向上させながら医療費の伸びも抑制できるようなものであるべきである。

次世代型ヘルスケアプラットフォームの実現には、次世代にわたり継続的な運用を可能とするインフラ構築が不可欠であり、よって、ここに資金及び人材を国策として投入することは、喫緊の課題である。本提言に基づく国民的議論の上、次世代型ヘルスケアプラットフォームの構築推進を提言する。